



# 原子力産業新聞

2012年8月9日  
平成24年(第2634号)  
毎週木曜日発行  
購読料1年分前金(消費税、国内送料込)  
会 員 9,500円(1部220円)  
非会 員 15,000円(1部350円)  
(当会会員は年会費13万円に本紙購読料の9,500円を含む。1口1部)

発行所 日本原子力産業協会

〒105-8605 東京都港区虎ノ門1丁目2番8号 虎ノ門琴平タワー9階 郵便振替 00150-5-5895  
電話 03(6812)7103 FAX03(6812)7110 ホームページ http://www.jaif.or.jp/ メールアドレス shinbun@jaif.or.jp

昭和31年3月12日第三種郵便物認可

## 厳しい意見の中、今後の対応に期待

### 政府事故調が地元福島で報告会



政府事故調の地元報告会で意見を述べる井戸川・双葉町長

政府事故調側からは畑村委員長、柳田邦男、柿沼志津子、林陽子、古川道郎、吉岡齊の各委員が、自治体側からは福島県、

県内各自治体首長など関係者が出席した。佐藤知事の出席はなかったが、井戸川双葉町長、渡辺天熊町長、遠藤富岡町長らも参加した。

畑村委員長は挨拶の中で、「責任追及を目的として、責任を前提にして、皆さんに協力してもらった。ものすごく高い授業料を我々は払われたわけであり、その教訓を徹底的に知見しなければならぬ」と述べた。

「現場は放射線が強く踏み込めないこともあり、全体像を捉えてはいない。事故はまだ進行中だ」と指摘した。また、「住民十六万人が生活の場を追われ、いまだ帰れずにいる。調査は終わらせてはいけない。政府は提言を実行していくこと、真摯に努力

## 「政府は提言実行を」 畑村委員長 事故全体は未解明

政府の福島原子力発電所事故調査・検証委員会(委員長 畑村洋太郎・東京大学名誉教授)は七日、報告書の内容を地元福島県の自治体に説明するため、福島市内で報告会を開いた。自治体の首長からは、報告書を取りまとめた労をねぎらう言葉が多かったが、「残念ながらこのままだと、すばらしい報告書を持つことに酔いしれて、中身を活かすことにはならないのではないか」、「我々から見ると、何も改善されていない。何も変わっていない。日本国民みんなで(事故の結果を)背負わなければならない」として、もう少し対応が違っていないか」などとする危惧や不満も表明され、各方面への今後の対応に強い期待が寄せられた。

### 「結論に影響及ぼさず」

#### 「秘密会議」問題 検証報告まとまる

原子力委員会が核燃料サイクル政策検討における「秘密会議」問題に関する検証報告書が六日、取りまとめられた。同委員会の審議の原則、一般公開で行われているところ、「勉強会」と称する事業者を含めた非公開の会合を開き、再処理路線に有利な方向へと議論を誘導していたと、閣府副大臣をヘッドとする検証チームにて調査が行われた。

「責任者がいない」ということは、無責任者ばかりでは困る」との指摘に対して、畑村委員長は「責任がないと言っている訳ではない。責任はどこかにあるし、必要な追求は別の組織で、別の人が行っている」と述べた。

放射能の影響については、「この放射線量は大丈夫か、この食べ物に食べられるか、米の全量検査は必要か、不安の連鎖が広がり、風評被害も大きい」との指摘に対して、柿沼委員は、「少ない放射線が長い間にわたって身近にあること、不安や、除染後の放射能

の対処法が問題だ」と述べ、「放射線はもととも(自然界)にあるもの。」との対処法が問題だ」と述べた。

「責任者がいない」ということは、無責任者ばかりでは困る」との指摘に対して、畑村委員長は「責任がないと言っている訳ではない。責任はどこかにあるし、必要な追求は別の組織で、別の人が行っている」と述べた。

放射能の影響については、「この放射線量は大丈夫か、この食べ物に食べられるか、米の全量検査は必要か、不安の連鎖が広がり、風評被害も大きい」との指摘に対して、柿沼委員は、「少ない放射線が長い間にわたって身近にあること、不安や、除染後の放射能

そこに、いまま少し増えたので、みんな勉強し、理解して行かなければならない」と語った。「地元の子も達が大きくなって、お父さん達やみんなが、あのと一生涯懸命にやってくれたと思ってくれるように、いまま努力したい」とした。

東京電力・福島第一原子力発電所の作業員について、畑村委員長は、厳しい環境の中で、命をかけて作業してくれた人たちがいたからこそ、この程度で事故が済んだといえる」と述べたほか、東京

電力が事故の危険性が高まったことから、作業員を撤退させるかどうかを検討したことについて、柳田委員は「生命倫理の問題で、原子力発電所の作業員がどこまで働くべきか重い課題だ。地震後、消防団員の中には、年寄りを背負って津波に流された人もいた」とした。

井戸川双葉町長は、作業員の働きについて、「双葉郡には福島原発で働いている人も多い。事故時にちり紙に遺書を書いた人もいたことを忘れないでほしい」と述べた。

委員が、「結論への影響」については、否定的であったことから、今回の検証報告では、小委の結論に影響を及ぼしてはならないとみている。

日本原子力産業協会は八月十三日(月)、十四日(火)の両日、事務局の通常業務を休ませて頂きますので、ご了承下さい。緊急のご用件につきましては、次の電話(090-8877-8735または090-8877-8661)にご連絡下さい。

### この一週間の出来事

- (2日(木)～8日(水))
- ・エネ環境選択肢の意見聴取会が終了(4日)
- ・「福島まごころフェスタ」都内で開催(4、5日)
- ・廃止措置技術開発に向けた福島WS開催(7日)

### 原産新聞の紙面から

- ◇国内ニュース
  - ・野田首相、ヒロシマ慰霊式で挨拶(2面)
  - ・「原子力若手討論会」開催報告(2面)
  - ・エネ・環境会議、福島でも意見聴取会(4面)
  - ・被災企業がNPO設立、自ら放射線検査(4面)
- ◇海外ニュース
  - ・スウェーデンで原子炉代替構想を申請(3面)
  - ・韓国の新月城1号機が営業運転を開始(3面)
  - ・台湾で脱原子力に向けたエネルギー政策(3面)

### 大飯3号機が 国の検査終了

関西電力の大飯発電所3号機(PWR、百八十八万kW)が三日、国の最終検査を終了し、本格運転を開始する。原子力産業新聞

原子力産業新聞の八月十六日付号は、休刊とさせていただきます。次号は八月二十三日付号となりますので、ご了承下さい。

## TNSは エネルギーエンジニアリングの あらゆるステージで あなたをサポートします。

TNSは原子力・アイソトープに関する高度な知識と技術を駆使し、設計から施設の廃止にいたるまでのあらゆる段階でサポート業務を展開するとともに、先端技術分野における研究・開発においても質の高いサポートを提供いたします。

<b>安全設計・評価</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設設計</li> <li>遮蔽設計</li> <li>安全評価</li> <li>RI 施設の申請業務代行</li> </ul>	<b>研究及び技術開発サポート</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究サポート</li> <li>技術開発サポート</li> </ul>	<b>工事</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設の保守・点検</li> <li>施設の解体工事</li> <li>施設の改造工事</li> </ul>
<b>施設の管理・運営</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>大規模施設の運用・管理</li> <li>放射線管理</li> </ul>	<b>受託試験研究</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境物質の分析</li> <li>環境物質の挙動解析</li> <li>トレーサー試験</li> <li>解体廃棄物の管理特性試験</li> </ul>	<b>機器販売</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>放射線管理区域の空調機器の販売</li> <li>放射線管理区域用機器の製造・販売</li> </ul>

## 東京ニュークリア株式会社

東京本社 : 東京都台東区台東1-3-5(反町ビル7F)	〒110-0016 TEL.03(3831)7957
東海営業所 : 茨城県那珂郡東海村村松字平原3129-31	〒319-1112 TEL.029(282)3114
つくば開発センター : 茨城県つくば市緑ヶ原4-19-2	〒300-2646 TEL.029(847)5521
大阪事務所 : 大阪市中央区内本町1-2-5(YSKビル5F)	〒540-0026 TEL.06(4792)3111
六ヶ所事業所 : 青森県上北郡六ヶ所村大字尾駱字野附1-4	〒039-3212 TEL.0175(71)0710